

- 54.そしてかれはそれを覆い去られた。
- 55.(人びとよ、) 一体主のどの御恵・に、あなたがたは異論を抱くのか。
- 56.これは、昔の警告者たちと同じ一人の警告者である。
- 57.(審判の時は) 近くに迫って来ている。
- 58.それはアッラーの外何者も明らかにし得えない。
- 59.あなたがたはこの話を聞いて驚いているのか。
- 60.嘲笑はしても、泣かないのか。
- 61.あなたがたは、自惚の中で時を過ごすのか。
- 62.一途にアッラーにサジダし、(かれに) 仕えなさい。〔サンダ〕

SURA 54.月章〔アル・カマル〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.時は近づき、月は微塵に裂けた。
- 2.かれらは仮令印を見ても、背き去つて、「これは相変らずの魔術だ。」と言うであろう。
- 3.かれらは(訓戒を) 虚偽であるとし、自分の欲望に従ってきた。だが一切の事には、定められた結末がある。
- 4.これまで、様々な消息は、既に(宙?)され、それで充分自制出来たはず。
- 5.それはめざましい英知であった。だが警告は役立たなかった。
- 6.だからあなたは、かれらから遠ざかれ。召集者が嫌われるところへ呼び出す日。
- 7.かれらは目を伏せて、丁度バツタが散らばるように墓場から出て来て、
- 8.召集者の方に急ぐ。不信心者たちは言う。「これは大難の日です。」
- 9.かれら以前に、ヌーフの民も(その預言者を) 虚偽とし、わがしもべを嘘付き呼ばわりし、「気違いです。」と言って追放した。
- 10.それでかれは主に、「わたしは、本当に力尽きました。どうか御助け下さい。」と祈った。
- 11.それでわれは、天の諸門を開き水を注ぎ降らせた。
- 12.また大地に諸泉を噴出させ、水は合わさり、かねての神命によること(洪水)が起きた。
- 13.しかしわれは板と釘で造ったもの(方舟)にかれを乗せてやった。
- 14.わが見守る中でそれは走った。これが(皆から) 退けられたあの者への報いである。
- 15.われはこれを一つの印として残した。さて誰か悟ろ者はあるか。

16. さあわが懲罰と戒めとはどうであったか。
17. 本当にわれは、クルアーンを易しく説き明した。さあ、誰か悟る者があるか。
18. アード（の民）も（真理を）虚偽であるとした。それでわが懲罰と戒めとはどうであったか。
19. われは災厄の打ち続く日に、かれらに対し荒れ狂う風を送った。
20. すると人間は、根こそぎになった。ナツメヤンの切り株のように、むしり去られた。
21. あの時のわが懲罰と戒めとはどうであったか。
22. 誠にわれは、クルアーンを易しく説き明かした。さて、誰か悟る者があるか。
23. サムード（もまた）警告を虚偽であるとした。
24. そしてかれらは言った。「何と、わたしたちの中の一介の人間ではないですか。どうしてこんな者に従いますか。それこそ邪道、気違い沙汰です。」
25. わたしたちの間でかれだけに啓示が下されたのですか。いや、かれは大嘘付きです。」
26. （仰せられた。）「かれらは明日知るであろう。どちらが大嘘付きであるかを。」
27. 本当にわれは、かれらを試・るため雌ラクダを送るであろう。あなたは耐え忍びかれらを見守れ。
28. そしてかれらにラクダと水を分配し、順番に飲むよう伝えなさい。
29. だがかれらは仲間を呼び寄せ、その男は（剣を）手にとると膝の臑を切ってしまった。
30. その時のわが懲罰と戒めとがどうであったか。
31. 本当にわれは、かれらに向かって（耳をつんざく）一声を下すと、かれらは家畜の囲いに使われる枯れ株のようになった。
32. われは、クルアーンを易しく説き明した。さて、誰か悟る者があるか。
33. ルートの民も警告を虚偽であるとした。
34. われは砂石の嵐をかれらに送った。ルートの家族だけは別であった。黎明にかれらを救い、
35. われからの恩恵とした。このようにわれは感謝する者に報いる。
36. （ルートは）わが懲罰をかれらに警告したのだが、かれらはその警告に就いて疑惑の念を抱いた。
37. そしてかれの賓客（天使）を、かれから奪おうとしたので、われはかれらの目を潰した。「さあ、わが懲罰と警告を味わえ。」
38. あくる朝、永遠の懲罰がかれらに下った。
39. 「さあわが懲罰と警告を味わえ。」

- 40.われは、クルアーンを易しく説き明した。さあ、誰か悟る者があるか。
- 41.本当にフィルアウンの一族にも警告者が遣わされた。
- 42.（だが）われの種々の印を虚偽であるとした。それでわれは、偉大で強力な者の一(組?)・で、かれらを捕えた。
- 43.あなたがた不信心者（クライシュ族）の方が、これらの者よりも優れているのか。それとも啓典の中にあなたがたのための赦免があるのか。
- 44.それともかれらは、「わたしたちは皆勝利を得る者です。」とでも言うのか。
- 45.やがてこれらの人々は敗れ去り、逃げ去るであろう。
- 46.いや（審判の）時は、かれらに約束された期限である。しかもその時には、最も嘆かわしい最も苦しい目にあうであろう。
- 47.本当にこれらの罪を犯している者たちは、迷っているか、間違いである。
- 48.火の中に顔を下にして引きずられるその日、かれらは、「猛火の触れ具合を味わいなさい。」（と言われよう）。
- 49.本当にわれは凡ての事物を、きちんと計って創造した。
- 50.またわが命令は只一言、瞬のようなものである。
- 51.われはこれまで、あなたがた（マッカの多神教徒）の同類を滅ぼした。さて、誰か悟る者があるか。
- 52.かれらの所行は、書冊に凡て記録されている。
- 53.大小凡てのことが、等しく書き留められている。
- 54.本当に主を畏れる者は、園と川のある、
- 55.全能の王者の御許の、真理の座に（住むのである）。

SURA 55.慈悲あまねく御方章〔アッ・ラハマーン〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.慈悲あまねく御方が、
- 2.このクルアーンを教えられた。
- 3.（かれは）人間を創り、
- 4.物言う術を教えられた。
- 5.太陽と月は、一つの計算に従い（運行し）、
- 6.草も木も、（慈悲あまねく御方に）サジダする。